

相内惟史様 (大阪府)

常にアグレッシブに世界を挑発するトガッた劇場 in→dependent theatre 劇場プロデューサー

No.	劇団名「タイトル」	コメント
2	廃墟文藝部 「モノカキ」	プロジェクターからの映像を利用する作品は、これまでの QSC にもあったかと思いますが、その中でも洗練されているように思います。その反面、画角が変わらない(カメラワークが無い)事が、映像作品的には少し面白みに欠ける部分が悩みどころですね。コンパクトな中にドラマがきちんと詰め込まれている構成は上手いと思います。
13	中野劇団 「隣人が」	この手の番組を外ロケで撮るという設定とアイデアが既に面白いです。そして、編集者とアシスタントやラストのストーカーの正体など、観ている側のミスリードを狙っていくシナリオがいつもながら見事です。
18	サトユウスケ 「brother」	自然な感じの兄妹のやり取りの中に滲み出す、過去の何かは凄く思わせぶりで良い空気感なのですが、やはり定点固定で画が変わらないのは映像作品的には魅力が半減している感じがします。
21	コマエンジェル 「夢の妖精」	コント的に始まったと思ったら、まさかのミュージカル?!この吹っ切った爽快感は若手には出せないかも(笑)それにしてもロケ場所の構造が気になります。QSC では編集できないからこそ、撮影場所の設定や魅力も重要なポイントのように思います。雑な暗転もツボです ww
23	山西竜矢(劇団子供巨人) 「さよならみどり」	一部屋の中で、カメラワークと劇中映像を使い過去と現在を描き、見事にまとまっています。ミスリードを誘発する脚本上の演出も上手いし、終止物語がどこに着地するのかを静かに見守りました。
24	Takashi Yamamoto 「世襲ヒーロー『タナトスマン』」	怪獣を一切出さずに、室内の中だけで過去と現在の2世代を交錯させて描く手法は見事です。ネタ的に好みはわかるかもしれませんが、ヒーローに限らず、警官や消防士など、危険と隣り合わせの男とそれを支える物語と読み解くと自然と普遍性を持つ作品ですね。
27	24EP 「泳ぐ女」	俯瞰からの固定カメラで描き出す一篇の詩のような作品。画はどうしても単調になりがちなのに、さばかれていく魚と淡々とした語り口の二人が、絶妙な味わいと緊張感を醸し出して、退屈にはならないのが不思議。
51	前田斜め 「僕は風になって君の家に入り込むから窓は開けておいてくれ。もし開いていなかったら上空で待機して君が家から出てきた瞬間に吹くよ。」	何とも言えない独特のパワーを感じます。縁側と続く部屋のような半野外の不思議な空間も魅力的。突然チープな人形劇風になったり、表現手法も物語もぶっ飛んでいるのですが、何かひきつけられるものがあります。
58	大浜 直樹・LIVES 「遭遇」	振り込め詐欺を再現しつつ笑いを取るコメディかと思いきや、ラスト一気にシリアスな路線に切り込んでいくシナリオが見事です。実際にはこんな良い話になることは無いんだろうけど、何となくリアリティを感じてしまう。

67	くちびるの会 「ポスト、夢みる」	ポストを擬人化するっていう目の付け所がステキですね。ポストが凄く愛おしく見えてきます。プロジェクターで背景を出す手法はQSCで良く観られますが、シンプルなイラストが絵本のように作品にあっています。会場(ロケ場所)のせいか、声が響いて聞き取りづらい部分があるのが少し残念です。
69	ハセガワアユム(MU) 「YoutuberのSaeComが渋谷のハロウィンではしゃいでると親戚のおじさんと未知との遭遇」	本当にYoutuberが撮影しているかのようなドキュメンタリー風の展開で、おじさんのキャラが良い感じで、SaeComとの微妙な距離感も凄くリアリティを感じます。冒頭の伏線が、最後にぴりりと効いてくる感じで上手いです！

## 今井浩一様 (長野県)

元シアターガイド編集長。現在は長野のアートとカルチャーをもっと楽しむメディア Nagano Art+ を運営

No.	劇団名「タイトル」	コメント
2	廃墟文藝部 「モノカキ」	本当はスクリーンにもテレビにも文字を映すの反対なのに、むしろさまざまな深みを想像させてくれて大好き。なんかこの女性の体内さえも探索している感じになっていく。これ、生で見たいぞ。名古屋って本当に独自に熟成されていくところなんだなって思った。
13	中野劇団 「隣人が」	一歩とは言いません、半歩先の展開が見えてくる、そして実際にその通りになっていく感じが最初は違和感。でもだんだん、だんだん心地よくなっていく。不思議。思わずそうだろ！ そうだろう！ 気持ちが高揚していく。
18	サトユウスケ 「brother」	もしかしたら、現代の若い子は、こういう関係が楽チン、心地良いというやつだろうか。最初のツーショットがいちばん想像力を膨らませてくれたんだけどなあ。ゲームのことがわかるとヒントがあるのかな？
21	コマエンジェル 「夢の妖精」	更年期主婦軍団！ 琴線に触れた(笑)。シニアな演劇は社会のニーズだけれど、この世代がもしかしたら一番ぞんざいに扱われているかも。それを逆手にとっているところが素敵。昔はこういう演劇いっぱいあったなあ。楽しい。公演みたい！ 息切れからが人生だ。
23	山西竜矢(劇団子供鉦人) 「さよならみどり」	彼女の後ろ姿がすごく雄弁に何かを語っているけれど、その何かわからなさがすごく想像を膨らませて、ずっとずっと引きつけてくれた。14分には収まらない、描かれていない、もっともっと長い年月まで見えてくるよう。そういうところで見ると人の想像力や思い出にアクセス！
24	Takashi Yamamoto 「世襲ヒーロー『タナトスマン』」	ヒーローって、大変なんだよねえ。。ヒーローの日常ってたぶん、こんな感じ。どんな重要な夫婦の物語があっても、地球防衛が優先。ヒーローはヒーローでいなければならない。そしてヒーローの妻もヒーローの妻でなければならない。自衛隊の皆さんの家庭ってこんな感じなのかな？ ヒーロー大好き。

27	24EP 「泳ぐ女」	み群杏子のせりふすごく素敵。男女の関係性も伝わって気そうなのだけど、どうも床で魚をおろすのが気になって仕方がないのよ。この包丁は左利き用なのかなあとか。包丁の切れ味が物語をもっとシャープにするはずだ。女優さんの語りも存在感もいい感じだけに減茶おいしい。
51	前田斜め 「僕は風になって君の家に入り込むから窓は開けておいてくれ。もし開いていなかったら上空で待機して君が家から出てきた瞬間に吹くよ。」	わ、チープさもひっくるめて、なんだか無性にかっこいい。振りかざす情熱と屈折する愛が伝わってくる。チープなのにダイナミック、いやチープだからこそか。演劇ってこういうところから始まるよね。つかさんがご存命なら、こんな長いせりふが言える身体を喜んだかもしれない。
58	大浜 直樹・LIVES 「遭遇」	物語って素敵だな。シンプルだけれど、とっても丁寧にやりとりが描かれた、素敵な本。こんなリアルじゃないなんて全然思わなくて、(時期的に言えば)こんなクリスマスプレゼントのような物語がうれしい。映像がもっと想像を超えていけばなあ。
67	くちびるの会 「ポスト、夢みる」	紙芝居みたい映像から伝わってくる優しさがいいなあ。通信が不便な時代が懐かしい。世界で一番夕焼けが似合うポスト。時代が便利になっても、こういう世界に哀愁を感じるのが人間であるならば、残しておけばいいのに。叫びは叫ばないほうが通じる時もあるかも。
69	ハセガワアユム(MU) 「YoutuberのSaeComが渋谷のハロウィンではしゃいでると親戚のおじさんと未知との遭遇」	さすが、ハセガワくんの作品、秀逸だ。おじさんの悲哀、すごくわかる。おじさん、どうしちゃったんだろ。余韻もなく理由も話されないままブツツと終わるのも作品のテイスト的には合っている。だけどスキがなさすぎて……という感想はダメ？ でも本も役者もとてもいいと思う。

## 小熊ヒデジ様 (愛知県)

名古屋を中心とした東海地区の演劇文化振興普及、活性化をめざす名古屋演劇教室代表

No.	劇団名「タイトル」	コメント
2	廃墟文藝部 「モノカキ」	ぶれることなく、凜とした佇まいで演じ続ける俳優と、緻密に組み合わせられた映像と演出。一度舞台上演を経て、さらに完成度を高めた作品に強い志を感じました。一方、美しすぎるのかも、とも感じました。
13	中野劇団 「隣人が」	人は会話のどこに惹きつけられるのだろうと考える作品でした。言葉の意味情報も勿論ですが、声の種類、表情、身体の状態、動き、人との距離感、等々。アシスタントの方のインパクトが強烈でした。
18	サトユウスケ 「brother」	観返してみると染み入るものがあり、15分の限られた時間をどう構成するのも重要かと思いました。観る人をどこへ連れて行くのか。もう少し違う場所に連れて行かれてみたかったです。

21	コマエンジェル 「夢の妖精」	楽しかったです。若さも力だけれど、加齢も力ですね。名前も素直に可笑しかったし、創り込んだ観応えもありました。ちょっといい話っぽい気配があるけれど、馬鹿馬鹿しさに突っ走った破壊力のある方向でも観てみたい。
23	山西竜矢(劇団子供鉅人) 「さよならみどり」	モニターに映る粗めの映像、縁側でタバコを吸う夫、無表情な妻、甲斐甲斐しく働く夫、別れの言葉、その後ろでアップになる妻の顔、遺影、低めのトーンで喋る新しい女、一瞬という言葉、ポキャブラリーの少ない会話、切れるバッテリー。無理のない構成に加え、随所に想像力を刺激するピースが散りばめられていて、良い作品だと思いました。
24	Takashi Yamamoto 「世襲ヒーロー『タナトスマン』」	色々な意味でのチープさが良い味になっているのは、作品創りに取り組む真摯な姿勢の表れからでしょうか。二世帯をシンクロさせているのも良い効果になっていたと思います。ヒーロー姿もなんだか様になっていました。
27	24EP 「泳ぐ女」	とても独特な作品だけれど、その独特さが僕には強すぎるように感じました。青魚のアップ、俳優の演技、揺れるカメラ、魚を捌く手つき。独特の世界観で綴られた脚本を映像化するにあたり、他の演出方法の可能性を考えてしまいました。決して青魚が苦手なわけではありませんが。
51	前田斜め 「僕は風になって君の家に入り込むから窓は開けておいてくれ。もし開いていなかったら上空で待機して君が家から出てきた瞬間に吹くよ。」	よくわからないままに巻き込まれました。ピントが外れていてもほぼ気にならない勢いを感じました。乱暴なようで、計算された絵作りがされていて、壮大さも感じます。好きな作品です。俳優も良かった。
58	大浜 直樹・LIVES 「遭遇」	良い話でした。良い話で良いのか、と逆に思ってしまいました。遊び心があり、テンポや演技も良いので、アイデアをさらにいくつか投入してみてもどうでしょうか。
67	くちびるの会 「ポスト、夢みる」	声が反響していて聞きづらく感じました。可愛いファンタジーで好感を持ったからこそ、そこは気を使って欲しいと思いました。最後に退場するポスト役の人も見切れていました。
69	ハセガワアユム(MU) 「YoutuberのSaeComが渋谷のハコウインではしゃいでると親戚のおじさんと未知との遭遇」	渋谷の雑踏から人通りの少ない街へ移動する背景にドラマを感じました。おじさんの境遇に興味惹かれます。サエちゃんを溺愛していたであろうおじさん。今はYou Tuberのサエコム。もう一展開観てみたいです。

小菅隼人様（東京都）

演劇と映像のライブ性について研究 慶應義塾大学教授、日本演劇学会副会長

No.	劇団名「タイトル」	コメント
2	廃墟文藝部 「モノカキ」	「書く」ことを、「折る」「削る」「切り落とす」といった連想から説き起こす問題意識とその展開には緊張感がある。但しこれらが基本的に身体感覚をベースにしている故に、これらの身体感覚については、観客側からは想像力に頼るしかなく、ライブの代替物としての映像にしか感じていないと感じた。
13	中野劇団 「隣人が」	何気に横切る通行人、そして、橋向から人を走らせるシーンには感心した。それによって画面に奥行きが出たからだ。しかし、危機は隣にある、という恐怖を描こうとしているとすれば陳腐だし、会話自体も無駄が多く、掛け合いも煩(うるさ)いと感じた。
18	サトユウスケ 「brother」	兄弟の雰囲気はよく出ていた。斜めからのアングルも、二人の人物の心情と雰囲気を反映しているように見えた。最後に出てくるシュンへの言及は物語に奥行きを与えていた。但し、それだけのドラマだし、感動を与えるだけの内容も表現も不足していると感じた。
21	コマエンジェル 「夢の妖精」	寺山修司風の導入とパステルカラーの色調がとてもいい。突き抜けた中年女性たちには「恐怖感」さえ覚えるし、彼女たちの夢は全てが反メルヘンかもしれない。もう少し毒があってもいいかもしれないがこういう作品は大好きだ。それは自分たちが楽しんでいるのがよく伝わってくるからだ。
23	山西竜矢(劇団子供鉅人) 「さよならみどり」	ビデオの中にいる死者—毎年のように繰り返されるこのパターンをととも眨(けな)したくなる一方、能から続く日本人の感性として認めたくもなる。みどりさんの演技と魅力をどれだけ観客が感じられるかでこの作品の評価が決まると思う。私自身に問われれば、女優自身にもう少し何か欲しいと感じた。
24	Takashi Yamamoto 「世襲ヒーロー『タナトスマン』」	少し窮屈さは感じるが、異なる次元を一つの画面に収める絵巻物的手法を上手く使っていると思う。但し、物語に新しさがないだけに、もっと大げさな演技によって、もっと笑いが欲しい。勿論それは台本に求められる部分も大きい。
27	24EP 「泳ぐ女」	とてもいい作品だと思った。女性のエロチシズムがよく出ているし、魚の解体と女性の興奮が上手くシンクロしている。但し、台詞の扱い方に疑問がある。沈黙の魚と同じく女性に台詞はいらなかったかもしれない。もちろん芸術的客観化は必要だから、台詞を画面に存在させる方法に工夫を見せて欲しかった。
51	前田斜め 「僕は風になって君の家に入り込むから窓は開けておいてくれ。もし開いていなかったら上空で待機して君が家から出てきた瞬間に吹くよ。」	1970年代に見たらとても斬新に思えた作品だったであろう。私は演劇を観に行く時は台詞に酔いたいと思うし、映画を観に行く時は画面に魅せられたいと思う。この作品は、言葉と素材は良いが、それを媒介する演技と映像に難があると感じた。

58	大浜 直樹・LIVES 「遭遇」	台詞だけで見せようとしている点に清々しさがある。前半は大笑いした。ありそうなコントとはいえ、お婆さんのボケ方が上手く嵌っていた。後半は台詞のクオリティが下がったと思う。一気に落ちてガラッとトーンが変わる切れ味が今一つだった。それは兎も角として、今回ももっとも楽しめた作品の一つだった。
67	くちびるの会 「ポスト、夢みる」	ポスト役の女優がとてつもなく素敵で才能を感じた。その意味で、今回一番好きな作品であった。但し、最高の作品とは思わなかった。これは、映像ではなく、物語と観客の地平が繋がっている舞台でこそもっとも魅力を発揮する作品だからだ。
69	ハセガワアユム(MU) 「YoutuberのSaeComが渋谷のハロウィンではしゃいでると親戚のおじさんと未知との遭遇」	自室では観れないものを見せてくれるのが映像のアドヴァンテージだとすれば、渋谷のハロウィーンの雰囲気を与えているという意味でこの作品を評価する。但し、女優もおじさんも個性的で好感が持てるが、個人的スナッフ映像の域を出ていないと思う。それがYou Tubeだと主張するのであればそれはそれとして認めたい。

### 佐々木雅子様（北海道）

創造活動を広く支援するアーティスト滞在型施設 さっぽろ天神山アートスタジオ コーディネーター

No.	劇団名「タイトル」	コメント
2	廃墟文藝部 「モノカキ」	美術科出身としては、中の芯が折れる！折れる！！とソワソワしながら観ました。 「書く」＝「欠く」のオチは良いと思いますが、おじいちゃんの声や映像のテキストなど、説明しすぎかな…と感じる部分もあり、もっと想像させる創りになると良いのでは。鉛筆、大事にしましょう。
13	中野劇団 「隣人が」	途中でほぼオチが読めてしまったので残念。 会話や構成は面白いと思うので、もう少し読まれにくい仕組みの台本になっていると最後まで楽しく見れたかな、と思います。 「てにをは」がおかしいセリフが気になりました、噛んだ部分もややあり、できれば完璧な状態で見たかったです。
18	サトユウスケ 「brother」	素敵な作品でした。 カメラも出演者もほぼ動かない＋日常的な会話だけで、登場人物の人となりやそこに居ない人たちに想いを馳せることができ、シュンニが判明した後でもう一度観るとまた違う視点で楽しめる良作だと思います。好きです。
21	コマエンジェル 「夢の妖精」	歌って踊る楽しそうなババアを見ているだけで、まわりも自然と笑顔になる場合とそうでない場合があるので気を付けなくてはいけないな、と今後の生き方について考えました。女性のみなさん、30代後半からは、イソフラボンを意識的に摂取しましょう。備えあれば憂いなしです。お疲れ様でした。

23	山西竜矢(劇団子供鉅人) 「さよならみどり」	<p>巧妙なカメラワークと演出。</p> <p>亡くなった奥さんの自然な演技がとても良かったです。笑顔も素敵。終盤ちょっと泣けました。</p> <p>そして何よりオムライスが美味しそうだったので、今夜はオムライスにします！</p>
24	Takashi Yamamoto 「世襲ヒーロー『タナトスマン』」	<p>ヒーローにも普通の生活があるんだなあ、としみじみしましたが、警報鳴ってから出動するまで結構時間があつたので、だったら事前に着替えておこななくても…などと思ってしまうました。怪獣から国を守ってるんだから、ケガの手当てや保険は国で面倒みて欲しいですね。ヒーロー保険、大事です。</p>
27	24EP 「泳ぐ女」	<p>表現したい世界観はなんとなく分かったのですが、手法などもう一歩かな、という印象です。</p> <p>もう少しグッとくる感じの女優さんにするか、または女性は声だけでも良いような…。魚を捌く手元がもっとしっかり映っていたら良かったのに、と感じました。</p>
51	前田斜め 「僕は風になって君の家に入り込むから窓は開けておいてくれ。もし開いていなかったら上空で待機して君が家から出てきた瞬間に吹くよ。」	<p>出た！(笑)</p> <p>もう、演出とか演劇とかストーリーとかそんなの本当にどうでも良くなってしまふこの世界観が好きです。いうなれば現代アート。とにかく好き。何も言うことはありません。永遠にこのまま突き進んで欲しいです。めちゃくちゃ面白かったです。最高。</p>
58	大浜 直樹・LIVES 「遭遇」	<p>お婆ちゃんのボケ方が好きでした。</p> <p>つい、最後にもうひと捻りあるかな、と思ってしまうましたが、シンプルさを突き通していて結果的に良かったです。</p> <p>欲を言えば、お婆ちゃんの声がリアル婆さんだともっと良かったかな、と思います。</p>
67	くちびるの会 「ポスト、夢みる」	<p>児童会館などで上演すると良さそうな作品ですね。子どもたちに観て欲しいです。干マークの帽子が可愛かったです。全体的に、叫ばず抑えた表現の方がじんわり来るような気がします。</p>
69	ハセガワアユム(MU) 「YoutuberのSaeComが渋谷のハロウィンではしゃいでると親戚のおじさんと未知との遭遇」	<p>15分、飽きずに観ていられたのですが、だからと言って何か感じたり残ったりする訳でもなく、これが映画や演劇と、いわゆる youtuber 動画の違いかな、と思いました。</p> <p>が、台本やセリフがきちり決まっているのだとすれば、あまりにも自然な演技でそこは素晴らしいなど。</p>

豊岡 舞様 (静岡県)

福岡・九州の地域舞台芸術文化を支援する NPO 法人 FPAP (エフパップ) コーディネーター

No.	劇団名「タイトル」	コメント
2	廃墟文藝部 「モノカキ」	とても「演劇」らしい作品だなと思いました。ノコギリで鉛筆を切り落とすシーンは耳を塞ぎたくなるほど、気味が悪かったです。明かりはプロジェクターだけでしょうか。息をつく間もない台詞に引き込まれ、見ている息苦しくなりました。とても素晴らしい作品だと思うのですが、映像だからこそその魅せ方が何かあれば、もっと良かったのではないかと思います。
13	中野劇団 「隣人が」	もしかすると現実にもあり得ないのでは、と、妙にリアリティを感じました。ふうこさんのテンションに合わせて最後までハラハラしました。インタビュー中のカメラの揺れがとても気になりました。漫画家の、編集とアシスタントのキャラ設定は無くてもいいんじゃないかと思えます。
18	サトユウスケ 「brother」	オリジナルのゲーム画面、作り込まれていて凄いです。冒頭のカメラの移動が、もっとスムーズにいくと良いなと思います。会話の唐突さやテンションは、本当の兄弟を見ているようでした。最初の設定画面にも出てきた「しゅんすけ」さんはきっと重要なポイントなのだと思うのですが、後半の1分ほどしか会話にも出てこず、一体何者なのか霧がかかりすぎていて分かりませんでした。
21	コマエンジェル 「夢の妖精」	カメラワークがなめらかで、セットも手が込んでいて、プロモーションビデオを見ているかのようなようでした。全部夢だった、という、少し前によく見た落ちに年代を感じました。
23	山西竜矢(劇団子供鉅人) 「さよならみどり」	映画のような、MVのような、とても綺麗な作品でした。話が進むにつれて出てきたいくつもの伏線が、最後に全て繋がり、綺麗にまとまっているなと感じました。お仏壇を映して気づかせてくれる展開は、映像だからこそ作れたんじゃないかと思えます。
24	Takashi Yamamoto 「世襲ヒーロー『タナトスマン』」	現在と過去のシーンの切り替え方が上手いなあと思いました。見切れないように何度も動きを確認したのではないのでしょうか。テンポが良く、見やすかったのですが、展開が読めてしまったことが残念でした。
27	24EP 「泳ぐ女」	私の理解が至らないのか、何を伝えたいのかを図ることが出来ず、個人的には12分が長く感じました。魚を捌く手付きはお見事でした。
51	前田斜め 「僕は風になって君の家に入り込むから窓は開けておいてくれ。もし開いていなかったら上空で待機して君が家から出てきた瞬間に吹くよ。」	個人的に、一番のお気に入りです。詩的なような印象を持ちつつも違和感のある台詞と、場面の転換での小物使い、音楽のセレクト、この3つのギャップがとても面白かったです。終始、笑いが止まりませんでした。

58	大浜 直樹・LIVES 「遭遇」	始まった瞬間に「オレオレ詐欺」だと気づきました。最初は全員の顔がきちんと見えていて、後半に進むにつれてだんだん見えなくなってくる。気持ちが離れていく様子がうかがえます。後半は泣かせにかかってきたこと、この後4人がどうしていくかを、おばあちゃんが全て説明してしまったことが残念でした。アングルはとても良く、始まり方、終わり方は綺麗だと思います。
67	くちびるの会 「ポスト、夢みる」	背景や音の効果など、転換が良くできているなあと感心しました。役者さんのお芝居も素敵でした。電柱は、映像ではなくセットを作ってもいいのかなと思います。最初のタイトルと最後の「おしまい」が画面とずれていたのが惜しい。新しいものが出来れば古いものがなくなる、そんな当たり前のことがとても切なく、寂しく感じました。
69	ハセガワアユム(MU) 「YoutuberのSaeComが渋谷のハロウィンではしゃいでると親戚のおじさんと未知との遭遇」	一番最初にハロウィンとはどういうものを説明されているのに、最後に電話が繋がらなくなるまで気づかず、鳥肌が立ちました。誰しものが持っている後ろめたさを題材に、作品だからと綺麗に作ってしまわないところに好感を持ちました。

## 成島洋子様（静岡県）

演劇で世界と静岡をむすぶ SPAC - 静岡県舞台芸術センター 芸術局長

No.	劇団名「タイトル」	コメント
2	廃墟文藝部 「モノカキ」	テレビ的なテロップと照明を兼ねたプロジェクターのアイデアは、シンプルだが非常に良い効果を生んでいる。後半、意外な方向へと進んでいく展開がスリリング。「おじいちゃんの声」の質感にもう少しこだわりが欲しかった。
13	中野劇団 「隣人が」	ネット動画ネタのメタ物で、ウェブマンガやブログなどの豊富なネタを有機的に絡めていく筋はよく出来ている。「いかにも今」な感じの話の作りは良いのだが、演技的な盛り上げ方は、今の生っぽさを活かしつつもう少し工夫が欲しかった。
18	サトユウスケ 「brother」	オープニングの「MOTER」パロディが、よく出来ていて、世代によってはとってもキャッチー。一転、その後は何も起こらず、終始静かな画面。終盤には、何となく裏に流れる不安定な感じを思わせるやり取りがあるが、やはり何も起こらない。もうちょっと何かを感じさせてほしい。
21	コマエンジェル 「夢の妖精」	ピークは過ぎたが未だ流行っている「魔法少女モノの変種」かと思いきや、ネタMVリレーなところは、もしや「アイドル物の変種」なのか。展開とセットがよく出来ていて、テンポも良い感じ。そして全編に渡って画面がキツい(褒め言葉)のが素晴らしい。やりきった感がすごい。

23	山西竜矢(劇団子供鉅人) 「さよならみどり」	プライベートムービーっぽい作品かなと思わせておいての、実はビデオ観てるのでしたという始まり方、最近定番化した感がある。ほんの少し不穏な空気を漂わせながら淡々と進む展開で、オチはわりと読みやすい。実直に作ってあって好感は持てるが、2000年代にこういう邦画よくあったなという気がする。
24	Takashi Yamamoto 「世襲ヒーロー『タナトスマン』」	タイトルに派手なものを期待させながら、実は地味に裏側を描くやり方。ディテールがよく出来ていて、世界観にはすんなり入っていける。演技も過不足ない感じ。こういうヒーロー物パロディで2世帯を描くというのは意外とありそうでなかったかも。世帯描写の切り替えとカメラワーク、セット・衣裳の切り替えが有機的に機能するのがQSCならではの。
27	24EP 「泳ぐ女」	昔の単館インディーズ系邦画を思い出しました。意外な組み合わせでシュールな画作り、思わせぶりで詩的な言葉。ゆっくりと流れる時間。良くも悪くも、観終わった後に特に何も言うことが無いという。環境映像に近いのかもしれない。
51	前田斜め 「僕は風になって君の家に入り込むから窓は開けておいてくれ。もし開いていなかったら上空で待機して君が家から出てきた瞬間に吹くよ。」	タイトルからして不安しか湧かないが、なんというか、完全に自分の趣味を貫き通した映像作品。「ザ・自主映画」という感じ。終始意味不明な台詞と筋、スタッフの見切れやピンぼけを気にしないカメラワーク、音割れ、かと思いきやプツリと音が途切れる、最後のオチになる人形見えちゃってるとか、エド・ウッドを彷彿とさせる。変なエネルギーだけは伝わった。
58	大浜 直樹・LIVES 「遭遇」	定点撮影でシンプルな作りだが、こういうアングルは意外と観た記憶が無い。内容とあいまって、いいアイデアだと思う。話もベタだが、素直に泣かせてくれる。俳優の演技もちょうど良い。手堅い良作という感じ。
67	くちびるの会 「ポスト、夢みる」	言うなれば「プロジェクター紙芝居」という見せ方。プロジェクターで背景を変えていくのは、既に定番化しているのだろうか。形式に則って、話の内容と演技も紙芝居のそれを目指したのか、やや幼さが目立つ。演技はもっと大人であってほしかった。
69	ハセガワアユム(MU) 「YoutuberのSaeComが渋谷のハロウィンではしゃいでると親戚のおじさんと未知との遭遇」	Youtuberネタ。単に流行りモノ・時事ネタを生っぽくやってみただけなのかと思いきや、最後のオチで上手く絡めて回収していて、「おっ」となる。Saecomの生っぽさと、おじさんの「いかにもいそうな感じ」が秀逸。特にこのおじさんの感じは中々狙ってできるものじゃない。

横山千晶様 (神奈川県)

ことばと映像の協同作業を教育と町の現場で実験中 慶應義塾大学教授、

居場所「カドバヤで過ごす火曜日」運営委員会代表

No.	劇団名「タイトル」	コメント
2	廃墟文藝部 「モノカキ」	舞台を映像にすることを最初から目指した点が新しい。演劇と映像の淡いを楽しむことができました。ただ演劇の「立体感」をまさに「捨てる」ことで平面性が増した分、もう少し映像的な冒険があってもよかったかなと思います。俳優さんの演技はすばらしい。
13	中野劇団 「隣人が」	流れは面白いが、6人も人は要らなかったでしょう。話の流れから言っても4人(3人+カメラマン)で十分だったと思います。3者関係をもう少し緊張感を持たして描いてくれたらより見ごたえのあるものとなったのではないかと思います。
18	サトユウスケ 「brother」	シンプルだけれど、ストーリーはしっかり読み取れました。深い物語はそこに読み取ることはできませんが、会話の端々に出る感情は豊かでした。動きがほとんどない分、セリフはもう少し練ってもよかったです。妹さんの演技がよかったです。
21	コマエンジェル 「夢の妖精」	ただただお疲れさまでした！の一言。狭い空間の中で皆さんが着替えたり、笑いをこらえたりしている様子が目に浮かんできました。作品よりその裏が予想できて、それが楽しかったです。中高年万歳！
23	山西竜矢(劇団子供鉦人) 「さよならみどり」	テレビの使い方など、演出は素晴らしい。でもストーリー的にはもうオムライスがでてきた時から先が見えてしまっていて緊張感があつという間に途切れてしまいました。そうすると、テレビで起こっているストーリーも陳腐なツールにしかならず、ちょっと残念。むしろ、きれいにまとめる以外のストーリー展開がなかったのかしら、とってしまいました。
24	Takashi Yamamoto 「世襲ヒーロー『タナトスマン』」	タナトスマンというヒーローの名前が気になってしまいます。最初から死を意識しているのでしょうか。世襲ヒーローと謳っているのだから、その世代その世代でヒーロー観にもずれがあるはず。そんなところに着目したらもっと面白い筋になったのではないかなと思います。照明の使い方がよかったです。
27	24EP 「泳ぐ女」	最初の魚の大写しがとてもよかったです。このセリフは即興なのでしょうか。だとしたら素晴らしい。今回はまな板の上の魚と女性のアナロジーが強調されていましたが、もっと複雑な魚と男と女の関係にしてみたらさらに面白かったかもしれません。あえて女性を見下ろすカメラ視線をとらなかったとしたら・・・女性が魚をさばくののだとしたら・・・。とほかの可能性をじっくり考えてしまいました。
51	前田斜め 「僕は風になって君の家に入り込むから窓は開けておいてくれ。もし開いていなかったら上空で待機して君が家から出てきた瞬間に吹くよ。」	今回のほかの作品でもテレビ画面を使う手法が目立ちましたが、ビデオカメラのライブ画像を取り入れるなど、思う以上に芸が細かい。どこかの家の隣の小さな空間がすっかり宇宙に早変わりして、ルーマダーとニコライと一緒に宇宙を旅してしまいました。エンディングも好きです。

58	大浜 直樹・LIVES 「遭遇」	お見事！今度「おれおれ詐欺」にあつたらこの手で行こうと思いました。ストーリーよりもこの不思議な角度だからできることをきっちりやってくれました。コメディタッチから急にシリアスになるあたり、下からそれぞれの表情の変化を映し出していくアングル。お互いの顔が見えないまま演技をするわけですが、それでも息の合った動きと表情が素晴らしい。シンプルだけれど、なかなかできるものじゃない。
67	くちびるの会 「ポスト、夢みる」	背景の作り方が秀逸でした。レトロなポストのファッションもとてもかわいい。ただ、舞台上で撮ったせいなのか音が響いてしまって聞き取りにくいところが残念です。ところどころに出てくる紙芝居以外にももう少し映像であることを生かした工夫がほしかったです。
69	ハセガワアユム(MU) 「YoutuberのSaeComが渋谷のハロウィンではしゃいでると親戚のおじさんと未知との遭遇」	これじゃ、ただのYoutubeじゃないか…と思っていたら、意外や意外な展開！気に入りました。最後で話をすっきり終わらせないとこがまたいいです。渋谷のディープな裏道を舞台にしたのも正解。最後になるにつれておじさんの笑顔が忘れられなくなる。知らないうちにミステリアスなおじさんに共感している自分がいました。